

令和2年度
学校だより
6月号

かごまち



文京区立駕籠町小学校

校長 矢部 明美
令和2年6月1日

「あたりまえ」の風に

校長 矢部 明美

緊急事態宣言が出された後、時折訪れていた家の近所にあるラーメン店も、4月からシャッターが閉まりっぱなしになりました。張り紙に書かれた「当面の間、営業を自粛します」の文字が、店主の悔しさを物語っているように感じました。

ところが先日、シャッターが半開きになっていたかと思うと土曜日には店が開いていました。中に入ると切り盛りするご夫婦の「どうも！いらっしやい！」という元気な声といつもの笑顔がありました。店内を見回すと、昨日まで営業していたかのように、ご夫婦はいつも通り餃子を焼き、ラーメンを作っています。その空気の中にいる自分を、不思議に思いつつ座っていると、奥様が「店が開けられてもちろんうれしいけれど、こうしてまた会うことができる、当たり前のことですけど、それが何よりうれしいんです」と笑顔で話しかけてくださいました。その言葉は、私自身の実感として重なり、いつも通りのラーメンの味と相まってじんとしてきました。

5月27日に1年生だけ学校連絡日で登校しました。朝、いつものように校門のところで「おはようございます」と声をかけると「おはようございます！」と元気に、マスクからのぞく笑顔とともに答えてくれる子がたくさんいました。まだ、たった3日しか登校していない1年生からも、もう駕籠町小のあたりまえの風を感じ、久しぶりにわくわくしました。 - 学校はやっぱり子供がいてこそ！ -

学校が再開され、子供たちの日常が戻ってきたかのように見えます。とはいえ初めはグループに分かれての分散登校です。本校では、1日1回は、担任を含め学級の全員が顔を合わせることができるよう学級の中を分けることなく、1組、2・3組のグループに分けた分散登校としています。

「3つの密に気を付ける」が合言葉ですが、今後、学級が一緒になってみんなで勉強できるようになった後も、「学校の新しい生活様式」によって、これまであたりまえにできていたことが、あたりまえでなくなることがたくさん出てきます。仲よくしたい、でも近寄ってはいけない、というジレンマが子供たちを悩ませます。同時にこれは私たちのジレンマでもあります。それでも子供たちは、毎日学校に来て「おはようございます」から始まる学校生活の中で、オンラインでは決して得られないことのない学校という場所のにおいをかぎ、友達と過ごす風に吹かれ、学校のあたりまえに浸りながら、前を向いて、友達とともに成長していくことでしょう。これまでのご家庭、地域の皆様のご理解、ご協力に深く感謝すると同時に、これからも引き続き、学校とともに子供たちの成長を見守っていただけますようお願いいたします。

学校再開後の指導について

校長 矢部 明美

< 児童との個人面談について >

長い休校期間を経て、段階的に学校が再開しました。これまでと違った学校での生活様式に慣れていくまでに、子供たちはそれぞれに不安に思うこともあるかと思えます。少しでも安心して過ごせるよう、学校では、分散登校期間中に、短時間ではありますが、子供たち一人一人と担任との個人面談を行います。ご家庭におかれましても、再開後の子供たちの様子を見ていただき、気になることがありましたら、担任までお知らせいただけますよう、お願いいたします。

< 新型コロナウイルス感染症の正しい理解のために >

感染症予防の措置を講じていきますが、しかしながら学校における感染リスクが完全になくなるわけではありません。子供たちが新型コロナウイルス感染症の予防等について正しく理解し、いたずらに恐れたり、そのことが他者への差別や偏見につながっていったりすることがないように、保健教育指導資料『新型コロナウイルス感染症の予防』（令和2年4月 文部科学省）等を活用して健康で安全な生活を送れるように指導を行います。ご家庭におかれましても、正しい知識の下に、他者への偏見や差別が生じないように、子供たちとお話しいただけますよう、お願いいたします。